

海外に資産避難

総額三千万円を投じた外貨建て投信の純資産額は七のどかな水田が広がる金沢市郊外の集落。元公務員だ。昨夏以降の米住宅ローの荒木茂(仮名、79)は七十八歳を迎えた二〇〇六落した「長い目でみれば年、五十年以上続けてきた上がる」とお金を日本に戻

YEN流

縮む日本

日本株投資をやめた。持ち株をすべて売り払い、BR ICS、東南アジア、東欧の将来に期待できない。こなど新興国中心の外貨建て投資信託を購入した。今では年金以外の金融資産はすべて外貨建てだ。

(48)は「名も知らない国の投信を買う方がもつかる時代が続く」国内運用は安心「この迷いは消失した」と言う。その橋の目にも今の海外投資熱は奇異に映る。「長引く低金利で、本来は保守的運用が必要な人まで海外投資に押し出されていらないか」と心配が募る。世界も日本の個人マネーに歓迎一色ではなくなってきた。

口座開設お断り

「通訳付き日本人は口座開設お断り」。香港最大の銀行、香港上海銀行の本店では昨年夏から、言葉の通じない日本人客の口座開設を事実上拒否した。

老若男女 夢持てず

つこうに減らない。七十八歳で円を卒業した荒木にとつてこの国はお金を安心して託せる地ではなかった。「社会保険庁にお金を預けるよりベトナムに投資する方が安心です」。昨年末、投資情報出版社が東京都内で開いた「海外投資祭り」。講師の説明に約七百人の出席者は熱心に耳を傾ける。会場ではベトナム、タイ、ドバイ株への投資が、アイブックは飛びように売れ、ロシア株投資を扱う証券家は外国より自国の金融

78歳マネー難民



700人が出席した「海外投資祭り」(東京都港区)

「今のところ規制が必要」。東大本郷キャンパス。な段階とは思われないが、南アフリカ準備銀行の同好会に学生トレーダー幹部はジャパンマネーに神経をとがらせる。同じく高金利通貨のニュージランド当局者は、日本からの急激な資金流入に懸念を公に表明している。戦争や飢饉(ききん)で故国を追われさまよう難民のようなジャパンマネーの受け入れ国にも戸惑いが広がる。それでも国内に十分な投資機会を見いだせない現実が個人を突き動かす。「では最後の問題。円とリスクを挙げてください」「デフレから抜け出せない」「財政赤字が大きい」

「海外投資を楽しむ会」創立メンバーの作家の橋玲